

マラリア・ノーモア・ジャパン ゼロマラリア 2030 アップデート 第4号
2018年4月発行

1. 世界マラリアの日

1.1. 4月25日は「世界マラリアの日」

1.2. 2018年世界マラリアの日：マラリアを打ち負かす時が来た

- WHO 事務総長からのメッセージ
- ビル・ゲイツ氏との質疑応答

1.3. 世界マラリアの日イベント：狂言「蚊相撲」と日本のマラリア

2. ロンドン マラリアサミット

2.1. ロンドン マラリアサミット概要

2.2. M2030：アジアのマラリア排除のための革新的民間セクタープラットフォーム

2.3. 2040年までのマラリア撲滅に向けて～世界農薬大手企業5社（住友化学、BASF、バイエル、三井化学、シンジェンタ）の共同声明

3. ランセット マラリア根絶委員会

4. グローバルファンドのサンズ事務局長の来日

1. 世界マラリアの日

詳細：<https://www.mnmj.asia/wp-content/uploads/2018/04/世界マラリアの日 rev.pdf>

1.1. 4月25日は「世界マラリアの日」

2000年4月25日にナイジェリアのアブジャで「ロールバックマラリアのアフリカサミット」が開催され、アフリカの国々の首脳による「アフリカにおけるロールバックマラリアのアブジャ宣言」が採択されました。この宣言でアフリカのリーダーたちは、2010年までにマラリアによるアフリカの人々の死亡を半減するために尽力することへのコミットメントを表明し、4月25日を「アフリカ マラリアの日」とすることを宣言しました。その後2007年5月に開催された第60回世界保健総会で、4月25日を「世界マラリアの日」とすることが決定され、翌2008年から実施されています。

1.2. 2018年世界マラリアの日：マラリアを打ち負かす時が来た

今年の世界マラリアの日のテーマは「マラリアを打ち負かす時が来た」です。このテーマは、マラリアに関与している世界中の人々が「マラリアを無い世界」という共通の目標に

向かってひとつになる集合的エネルギーとコミットメントを強調しています。人類の歴史で最も古くからある感染症の一つであるマラリアへの取り組みの大きな進展と成果をハイライトすると同意に、2017年世界マラリア報告書に記載されている気がかりな傾向を強く訴えています。

- **WHO 事務総長からのメッセージ**

世界マラリアの日がなぜ重要なのか、の説明とともに、「マラリア対策が再び軌道に乗るように、是非参加してください。私はマラリアをまさに今打ち負かす準備ができています。あなたは？」と訴えかけています。

- **ビル・ゲイツ氏との質疑応答**

ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同会長のビル・ゲイツ氏が、WHO 本部の広報官によるインタビューで、何故マラリアが彼の財団にとって最優先課題なのかについて、全面的に語ってくれました。

1.3. 世界マラリアの日イベント：狂言「蚊相撲」と日本のマラリア

世界マラリアの日を記念して、4月25日に上智大学（共催）で、マラリア・ノーモア・ジャパンが事務局を務める「ZERO マラリア 2030 キャンペーン」主催の標記のイベントが開催されました。マラリアの概要及び日本におけるマラリアの歴史の紹介に続き、ゼロマラリア賞 2018 の表彰、狂言「蚊相撲」、そして「ゼロマラリア達成のための日本社会の役割」についてのトークセッションの後、フロアからの活発な質疑応答が行われました。

詳細：<https://www.mnmj.asia/archives/11319>

ゼロマラリア賞 2018：<https://www.mnmj.asia/archives/11379>

2. ロンドン マラリアサミット

詳細：https://www.mnmj.asia/wp-content/uploads/2018/04/ロンドンサミット_rev.pdf

2.1. ロンドン マラリアサミット概要

2018年4月16日～20日に英国ロンドンで開催された英連邦首脳会議の一環として、4月18日にロンドンでマラリアノーモア UK により「ロンドン マラリアサミット」が開催されました。予防可能なマラリアを無くす努力が行き詰っている現在、英連邦の19か国の首脳や大臣が、マラリアを打ち倒すために態勢を一変させるために次のようなハイレベルの政治的コミットメントを行いました。資金面では、予想を2億ポンド（約300億円）上回る、29億ポンド（約4350億円）のコミットメントが表明されました。また、英連邦首脳やウェールズ公、ビル・ゲイツ氏の主導によって、英連邦のリーダーたちに2023年までにマラリアを半減することにコミットすることを促した「行動喚起」が発表されました。このコミ

ットメントにより、今後5年間に3億5000万件のマラリア感染を防ぎ、英連邦の国々の65万人の命を救うことができます。

2.2. M2030：アジアのマラリア排除のための革新的民間セクタープラットフォーム

M2030のホームページ（英語）：<https://m2030.org/>

ロンドン マラリアサミットで、アジアのマラリア排除のための革新的な民間セクターのプラットフォームであるM2030が、グローバルファンドのサンズ事務局を迎えて発表されました。M2030は、2030年までにアジアでマラリアを排除するために、企業と消費者、保健機関を一堂に集めた独特のパートナーシップです。M2030のパートナーは「M2030ブランド」の製品やサービス、そしてマラリアに対する認識を高め、資金を調達するためにキャンペーンを実施します。M2030ブランドの物やサービスを購入すると、支援の100%がグローバルファン

ドを通してアジアの人々の命を救うマラリアプログラムに直接届きます。

2.3. 2040年までのマラリア撲滅に向けて～世界農薬大手企業5社（住友化学、BASF、バイエル、三井化学、シンジェンタ）の共同声明

詳細（英語）：<http://www.ivcc.com/fr/node/509>

ロンドン マラリアサミットで、農業化学品のリーディングカンパニーである住友化学、BASF、バイエル、三井化学、シンジェンタの5社は、2040年までにマラリアを根絶するため、革新的な製品の研究、開発、供給を支援する共同声明を発表し、宣言書に署名しました。5社は今回の共同声明で、ビル&メリнда・ゲイツ財団と Innovative Vector Control Consortium (IVCC) の支援を受け、2040年までにマラリア根絶を一緒に目指す「ZERO by 40」を掲げました。そして、今日殺虫剤耐性の増加が懸念されている中、5社が持つ知識や技術を用いて、効果的な媒介中対策を開発、供給することで、マラリア根絶の取り組みを推進するというコミットメントを表明しました。

3. ランセット マラリア根絶委員会

詳細：<https://www.mnmj.asia/wp-content/uploads/2018/04/ランセット.pdf>

マラリアの根絶が現実的、倫理的、経済的に有益な投資であるとみられるようになり、グローバルヘルスに携わるコミュニティは、国、地域、世界の各レベルの根絶イニシアティブを導くためのエビデンスをもっと必要としています。このような課題に取り組むために、ランセットとカリフォルニア大学サンフランシスコ校グローバルヘルスグループのマラリア排除イニシアティブは、WHOのマラリア根絶諮問グループを補完する、ランセットマラリア根絶委員会を招集しました。この委員会には科学、疫学、政策、財務、経済学の24人のリーダーで構成され、次の12か月間に2～3回会合を開催し、2019年に報告書を発表

する予定です。

4. グローバルファンドのサンズ事務局長の来日

4月24日に、来日中のサンズ事務局長と日本の市民社会との会合が、アフリカ日本協議会主催・日本国際交流センター/グローバルファンド日本委員会共催で行われました。市民社会からはジョイセフ、結核予防会、国境なき医師団日本、マラリア・ノーモア・ジャパン、アフリカ日本協議会、ふれいす東京、UHC ユース、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンなど10団体が参加しました。サンズ事務局長はエイズ、結核、マラリア対策に携わっている市民社会からの質問に熱心に答え、ディスカッションが行われました。サンズ事務局長は、エイズ・結核・マラリア対策において、現場とグローバルファンドを繋ぐことができる市民社会の役割の重要性を強調していました。マラリアに関しては、完全に根絶する前に対策が弱まると、急激に感染が増加してしまうという危険性、即ち根絶まで力を抜かずに取り組み続けることの重要性を十分認識していること、グローバルファンドの支援とともに各国の自己資金の増加やオーナーシップも重要であること、そしてM2030のように、アジアでは民間セクターが強力であり素晴らしいこと、などの言及がありました。

写真：<https://www.mnmj.asia/wp-content/uploads/2018/04/GF-CSO.jpg>

同24日の夜には、サンズ事務局長の来日を記念して、グローバルファンド日本委員会と駐日英国大使館の共催でレセプションが開催されました。世界マラリア・デーの前夜であったことから、レセプションでは、マラリア・ノーモア・ジャパンの協力で、能楽師狂言方の大藏基誠氏による狂言「蚊相撲」が上演されました。

詳細：http://fgf.jcie.or.jp/topics/2018-04-25_reception

★=====★

発信元：認定NPO法人 マラリア・ノーモア・ジャパン (MNMJ)

Copyright(C) Malaria No More Japan

〒102-0083 東京都千代田区麴町3-7-4 秩父屋ビル8F

Tel: 03-3230-2553 Fax: 03-5275-2020

Web URL: <http://www.mnmj.asia>

Facebook: Malaria No More Japan

★=====★

過去のメルマガは[こちら](#)

本メールマガジンは、メールマガジンに登録された方及び名刺を交換した方々などにお送りしています。万が一重複している場合や配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

advocacy@mnmj.asia